北海道中山間ふるさと・水と土保全対策事業／北海道里づくりアドバイザー情報誌

里づくり

第１２号　２０１６年２月
編集・発行/北海道農政部農村振興局農村整備課
〒060-8588　札幌市中央区北３条西６丁目
TEL　011-231-4111　/　FAX　011-232-4128

被災地の子ども達が実すぐり体験
写真提供：七飯町　田中いずみアドバイザー

CONTENTS

地域づくりリレーインタビュー
各々が出来ることを持ち寄り、支え合い、楽しみ、地域と共に歩む
せたな山の会　会長　富樫　一仁　さん

北海道里づくりアドバイザーレポート
帯広市　伊藤　由紀子　さん

新任アドバイザー紹介

BOOKS

トピックス

―人に学び、地域に学び、今できることから始める―

せたな山の会　会長　富樫　一仁　さん

2001年　瀬棚郡今金町にて新規就農
2004年　久遠郡せたな町にて農地取得、移住
2005年　有限会社秀明ナチュラルファーム北海道設立
2008年　せたな町の有機農家で「山の会」結成

せたな町とその近隣地区の有機栽培農家で組織する「山の会」は、地域漁業者や食材にこだわるシェフ達を始め、環境活動家、ミュージシャンなど、様々なジャンルの人々と交流を持ち、ユニークな活動を展開している。

各々が出来ることを持ち寄り、支え合い、楽しみ、地域と共に歩む

幼いころから喘息、アトピー性皮膚炎を患い、一時は普段の生活にも支障を来すほど酷くなった二十六歳の時、農家の知人から肥料・農薬を使用しない自然農法を勧められた。

藁にも縋る思いで生産者の道に入り、平成十年から三年間、夕張郡長沼町の新規就農のための実地研修で自然農法の米作りを学んだ。

平成十三年に瀬棚郡今金町で就農、平成十六年には隣町の久遠郡せたな町へ移住し、平成十七年、有限会社秀明ナチュラルファーム北海道を設立した。

現在は二十一ヘクタールの農場で有機JAS認証を取得、米・大豆・菜種・蕎麦などを自然農法で生産している。

平成二十年秋、地域振興のモデル事業を担当していた道職員から電話があり、「地域活性化のために頑張っている農業者を探している」と声をかけられた。

これが「山の会」発足のきっかけになった。

早速、近隣の意欲的な三十～四十代の有機農業仲間に声をかけた。

仲間達と、有機農業者として地域のため、この町の子供たちのために何ができるか、話し合いを重ねた。

「自然の摂理に順応した農畜産で地元から健康を届けたい」との思いで一致、途中、メンバーの入れ替えもあったが、現在は、酪農とチーズ工房の村上牧場、自然放牧黒豚のファームブレッスドウインド、トマト羊のよしもり牧場、こだわりのトマトジュースのソガイ農園と当農園の五つの農家で活動を共にしている。

山の会メンバー

この「山の会」のモットーは「一品持ち寄りの精神」である。

背伸びをせず、各々が出来ることを持ち寄り、支え合い、楽しんで、地域と共に歩んで行こうというものだ。

「山の会」のデビューは、平成二十一年四月、函館で開催された「世界料理学会」への参加だった。

国内外の超一流の料理人が集い、技術を競い交流する学会に「山の会」として初めてチーズ、豆腐、ソーセージ等の加工品を出品した。

関係者からは「素材の風味が素晴らしい」と好評を得た。

函館市で開催された世界料理学会

更に、食材の豊富さと独自性、そしてユニークなキャラクターの面々が話題となり、道内外からレストランのオーナーやシェフ等がそれぞれのネットワークから農場見学に来てくれるようになった。

「山の会」の生命線である、命と環境を大切にする、自然観を共有する提携が自然な形で広がっていった。

また、地域でのイベントや直売会、料理教室、更には札幌、函館といった都市部でのマルシェ等にも積極的に参加し、単なる消費者と生産者、料理人と生産者の提携関係を超えた、同じ自然観を共有する仲間といった位置付けでのネットワークが広がっていった。

オーガニック料理教室

北海道の特産物は、全国から人気が高く、そのため、いろいろな食に関連したコンテストも多い。

平成二十三年一月、道主催の「生産者がつくる愛食料理コンテスト」では、見学者などに「山の会」の食材を味わってもらうために考案した「ロコモコ丼」で参戦し、優秀賞を受賞した。

その後は、札幌の料理講習会にも招かれ披露する機会にも恵まれた。

平成二十三年六月、「山の会」との友情と思いの共有で結ばれている料理人との定期的なレストランイベント「オーガニックラウンジ」を発案した。

毎回好評のオーガニックラウンジ

記念すべき第一回は、函館のフレンチレストランからシェフを招き「山の会」の商品を販売しているレストラン「わっかけ岩」の二階で開催した。

素材に「山の会」の農産物、加工品の他、せたな港で水揚げされた仲間の漁師が捕った魚介類を使ったコース料理をシェフと生産者のスピーチを交えながら提供し、二十一名の参加者に一日限りの料理を堪能してもらった。

生産者もこの日ばかりはと、ウエイターに扮して料理を運び、ワインを注ぐ。

そして、参加者との会話を楽しみながら、自分たちの作った農産物についての反応を直に体験できた。

これを機に、定期的に「オーガニックラウンジ」を開催し、檜山振興局の地域づくり交付金（地域づくり推進事業）としての採択も得ている。

これらの活動が功をなして、地元の新聞をはじめ、情報誌、テレビ、ラジオ等にたびたび紹介されるようになった。

これまで関心のなかった人達も、町の活動として捉えてくれるようになり、命と環境を大切にし、自然とともに生きるという「山の会」の理念が町の中で徐々に具現化してきていると感じている。

地域のこども達と共に

地域の小学校等で行われる総合学習の授業に講師として参加したり、札幌の大学の農家体験学習などで学生が訪れるなどの活動が定例化してきている。

そして昨年は「山の会」が携わってきたイベントのひとつ「海フィール」が、せたな町合併十周年事業として自治体の多大なる協力のもと開催された。

特別ゲストには、インドの環境活動家のヴァンダナ・シヴァ博士、山形でイタリアンレストランを営むカリスマシェフの奥田政行さん、そして、歌手の八神純子さんをお迎えして、町民も多数参加し大盛況のうち終了した。

せたな海フィール

活動をふり返ると「一品持ち寄りの精神」で背伸びせず、仲間と共に、自分達の活動を信じ、楽しんできたのが今日まで続けられた秘訣ではないかと思う。

今後もこのスタンスで、長く活動を続けていきたい。

伊藤　由紀子（いとう　ゆきこ）さん

1981 年	大分県宇佐市生まれ 道内での酪農研修等を経て、帯広市内の酪農家へ嫁ぐ
2011 年	授精師の会代表
2011 年～2012 年	北海道女性協議会フレッシュミズ部会長 北海道十勝地区女性協議会フレッシュミズ部会長
2013 年	JA 帯広かわにしフレッシュミズ広野支部　支部長
2014 年	北海道ふるさと・水と土指導員

帯広市　伊藤　由紀子　さん

【北海道の酪農に憧れて定住を決意】

私の住んでいる帯広市は、十勝の中心部としての活気はもちろん、郊外では畑作や酪農が盛んに行われている地域です。

また、市内にはアニメ「銀の匙」の舞台として認知度も高まった帯広農業高校や帯広畜産大学などの人材育成・研究機関があり、産官学連携の場としても絶好のロケーションです。

自然が豊かで、脇道に車を停めて写真を撮る姿を見かけることも珍しくありません。

私が帯広市に移り住んだのは、およそ十四年前の春です。

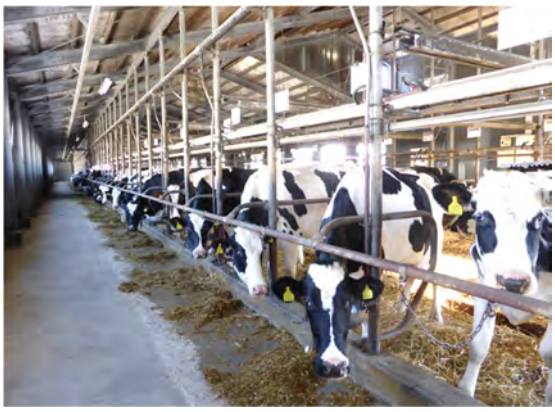
九州から東京へ上京した後、北国の酪農業に夢をもち、北海道を訪れました。

縁あって酪農家に嫁いでから、十年目になります。

以前と比べると街並みも変わり、新たに大きなショッピングモールもできました。

好んで何度も通った道は改修され、当時の農地は宅地造成され市街地化が進みました。

しかしながら、離農する農家も珍しくなく、農業従事者の高齢化が進む中、ここ帯広かわにし地区の農業後継者数は全国でもトップだと聞いていますが、それでも徐々に過疎化が進んでいるのが現状です。



伊藤牧場（乳牛の飼育風景）

農村を離れる人がいる一方で、近年の田舎暮らしブームも手伝ってか、田舎に憧れて街から移り住む方もいます。

以前、東京に住んでいた時には、お隣さんがわからなくても違和感なく過ごしていましたが、ここでは数百メートル先のお隣さんとも顔見知りです。

プライバシーに対する意識の違いに最初は慣れなかったものの、子どもを育てる身になってからは、地域の方々が我が子に関心を持ってくれる環境に、心強さと安心を感じるようになりました。

農村での生活をしている中では、都会での”当たり前”の人付き合いを持ち込む人がいる一方で、田舎の”当たり前”の人付き合いを求め抱いて、去って行く方もいます。

”地域住民に支えられてきた地域”のあり方も、時代の流れに対応していくことが必要なのかもしれません。

【地域の外から中を見て】

結婚してこの地域に来たとき、北海道らしい雄大な環境に感動したと同時に、よそ者の自分を受け入れてもらえるのだろうかという心配がありました。

そんな私の第一歩は、この地域にある農協女性部、その中でも若い人たちが集まっている部会のフレッシュミズから始まりました。

女性たちによる酪農に関する勉強会

私の住んでいる地区のフレッシュミズでは、部員同士の懇親を主な活動としています。

そのため新しく地域に来られた方が、

地域に馴染んでいくステップとしては、とても役立っています。

その反面で、一番小さなコミュニティの単位としてみたときには、閉鎖的な印象が拭いきれません。

フレッシュミズ部会に入って6年目に、全国から集まったフレッシュミズの仲間と交流する機会をいただきました。

そこでは、地域のコミュニティは、個々が地域に馴染む役割だけでなく、それぞれの立場を活かしながら対外的に働きかけるという、社会の構成員としてのコミュニティのあり方について、学ぶことができました。

【変えたくない環境のために、変えていくもの】

”継続は力なり”とは言いますが、”例年通り”の活動が、”例年通り”の環境を維持できるとは限りません。

それを意識しながら、これからの活動とコミュニティのあり方を考えていくことの必要性を感じています。

私たちの世代ができることは、構成員の一人ひとりが、地域に対して愛着を持つこと、地域の魅力を対外的に知ってもらうこと、同世代の若者に対して地域への扉を狭めないこと、これが今私の考えている地域活性化のポイントであり、同時に、地域の環境を支える土台づくりにもなると信じています。

地域の外から来た私にとって、十勝の中心消費地に近く、研究機関がある帯広市の環境は、とても恵まれています。

少し残念なのは”フードバレーとかち”という言葉を聞いたことがある人は多くても、帯広市のどこで農作物が作られているのか、知らない人がいることです。

街中に出て、地元の地名を出した時に「どのあたりですか?」と聞き返されるときの気持ちは、悲しいものがあります。

ヤギへの餌やり

農作業の時期によっては、作物や家畜以外と顔を合わせないこともありますが、収穫等で忙しいときこそ、消費者に生産物の良さを知ってもらうチャンスだと思っています。

この環境を活かして何かできないかと考え、地域のフレッシュミズでピザ作りを提案したことがあります。

また、徐々に増える若い一般家庭にも目を向け、育児セミナーも開催しました。

地域の次代を担っていく私たち世代にとって、心地よい地域にするためには、地域を守ってきた大先輩たち任せ、または大先輩を”前に倣え”するだけではなく、私たち自身が動くことも大切だと実感しました。

現在は、住んでいる地域にこだわらず、酪農家の女性が集まって、牛に関する勉強会を不定期で開いています。

直腸検査の実習や、細菌を培養して衛生状態を確認したり、先日はメンバーみんなの搾乳ワゴンの内容について、それぞれの工夫などを話し合いました。

勉強会や懇親会には、メーカーの担当者さんを呼んで意見をいただいたり、営業のきっかけにしてもらうこともあります。

自分たちの仕事を知って誇りを持つことも、地域愛につながると信じての試みです。

搾乳衛生に関する勉強会

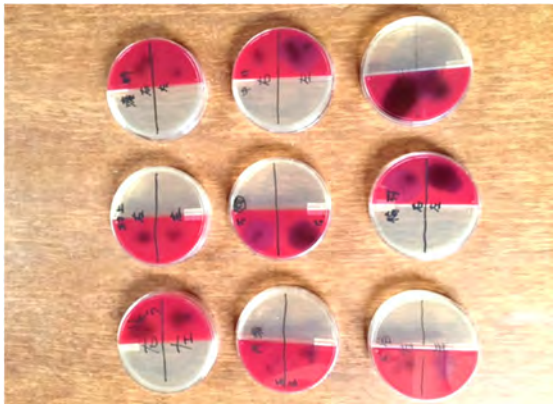
【農村に住む女性たちに期待】

農業に従事する女性を取り巻く環境は、めまぐるしい変化を見せています。

”農業女子”という言葉がメディアで取り上げられ、今まで「縁の下の力持ち」という役目を担ってきた女性にも、スポットが当てられるようになり、女性の社会進出の機会が増えました。

農業に携わる女性の中には、様々なスキルを持って地域にやって来られる方も珍しくありません。

農村に住む女性の能力を、如何に農村流にアレンジして引き出すことができるのか、「ムラ社会」から脱却し、住む人たちの多様性を認め、可能性を模索していける地域に向かって努力をしていきたいと思います。



細菌を培養して衛生状況を確認

新任アドバイザーのご紹介

今年度、十名が新たに北海道里づくりアドバイザーに加わりましたので、ご紹介します。

鈴木　修二 さん
（乙部町）

過疎化高齢化が進む町を少しでも元気にできればと、集落支援事業に取り組んでいます。また、「魚つきの森づくり」の会でも美しい森を育て豊かな海を守る「北の魚つきの森」づくりをコンセプトに日々活動しています。この森で採れた「おとべのはちみつ」は、大変好評です。どうぞよろしくお願いします。

高橋　徹 さん
（浦幌町）

国内初のラズベリー専業農家を目指し十勝うらほろ高橋農園を興し、今では傘下に国内初のラズベリー加工専門企業を設立。ラズベリーは浦幌町の新特産品と掲げられるまでになりました。この地域再生・新産業創業を実践的に取り組んできた経験をこの場に活かしていきたいと思います。

白川　博順 さん
（喜茂別町）

平成二十七年六月より新たに指導員となりました。喜茂別町は、札幌市に通じる国道二七六号線と苫小牧市に通じる国道二三〇号線が町内で交差しており、豊富な自然を活かした農業を基幹産業とした町です。喜茂別町の自然をより多くの方々に知って頂けるよう様々な活動に取り組みたいと考えております。

小西　泰子 さん
（岩見沢市）

岩見沢市北村で稲作を中心とした空知輪作体系型農業を営んでいます。地域は限界集落に近いので、農業の活性化以前の課題として、農村の活性化を図ることを勉強したいと考えています。食農教育・環境教育や農業を生かしたバリアフリー観光などで人が訪れる農業を目指したいと思います。

辰巳　明美 さん
（上川町）

昨年十月からアドバイザーになりました。上川町は観光と農業の町です。大自然のなか、田んぼの蛙のなき声や朝露に光る蜘蛛の糸、青空に飛び立つトンボの姿…そのような風景を子供たちと共に見守り、学んでいきたいと思います。

金丸　大輔 さん
（栗山町）

はじめまして！栗山町役場に勤務していますカナマルと申します。公私共に農や食に関わることを実践したり、仕掛けたり、学んだりしています。自分の経験が少しでも皆様のお役に立てるように頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します！

黒須　倫子 さん
（北見市）

北見市北陽において畑作を中心に農業を営む傍ら、オホーツク管内のＪＡ女性協議会の副会長を務め、一般消費者を対象にした食育を中心に地域活動を展開しています。指導員就任により全道の活動を学び、より充実した活動にしたいと考えています。

荒城　敏文 さん
（厚真町）

昨年六月よりアドバイザーになりました。この地域が少しでも元気がでるよう、先輩アドバイザーの皆様に教えていただきながら、これから頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

別海から武佐岳を望む

渡邊　広美 さん
（別海町）

昨年九月よりアドバイザーになりました。別海町で酪農をしております。地域全体、子どもから大人までが元気になるようなそんな活動をしていきたいと思います。微力ながらがんばりますので、よろしくお願いいたします。

中川　貢 さん
（浦河町）

馬産地として有名な浦河町でツアープログラム企画やガイドをしています。海山川に囲まれた自然豊かな町で農業体験ツアーや馬に特化したツアー、オオワシ・オジロワシ観察プログラムなど着地型観光を行い、町の活性化に取り組んでいます。

指導員ブロック別ミーティング

平成二十六年度に道南・道東で試験的に開催したブロック別ミーティングを平成二十七年度からは、正式な研修事業の一環として開催しました。

各ブロックの幹事が中心となって開催したこの研修は、地域ならではの課題を検討し、情報交換を行うことで、より地域を理解し更なる地域活動を活性化することを目的としています。

来年度も実施しますので、アドバイザーの皆様のご参加をお願いします。

各ブロック開催結果

道東ブロック

平成27年7月30日～31日　北見市常呂町

○ 地域に愛される「牛乳練りうどん」
　久保美恵子ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（湧別町）

○ 別海地区の活動について
　佐藤節子ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ、水沼和子ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（別海町）

○ 常呂地区の活動について
　馬渕陽子ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（常呂町）

○ NPO法人常呂ｶｰﾘﾝｸﾞｸﾗﾌﾞ見学

道央ブロック

平成27年11月6日　札幌市

○ 里平地区の活動について
　佐藤剛ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（新冠町）、田中義光ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（日高町）

道北ブロック

平成27年11月10日～11日　旭川市

○ 豊富温泉とまちづくり
　尾﨑滋ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（豊富町）

○ 豊かなｻﾛﾍﾞﾂの地域資源をつなぐ
　山元嘉基ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（豊富町）

○ 幌加内町のそば振興について
　中村雅義ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（幌加内町）

道南ブロック

平成27年11月19日～20日　せたな町北檜山区

○ 知内地区における活動について
　笠松悦子ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（知内町）

○ 乙部地区における活動について
　鈴木修二ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（乙部町）

○ ﾅﾁｭﾗﾙﾌｧｰﾑ、山の会の活動について
　富樫一仁ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ（せたな町）

指導員会幹事会　紹介

一月二十二日に開催した指導員会により、役員が改選されました。

来年度は、十二名の役員で研修事業を企画していきますので、どうぞよろしくお願いします。

会　長
小野寺孝一（当麻町）

副会長
阿岸　哲広（石狩市）

幹　事
外山　陽一（雨竜町）
鏡山　英利（むかわ町）
小林　石男（八雲町）
宮崎　渉（森町）
吉見　俊彦（上ノ国町）
岩永かずえ（南富良野町）
白府勝二三（苫前町）
馬渕　陽子（北見市）
神　義宏（豊頃町）
服部　政人（鶴居村）

BOOKS

里山産業論　「食の戦略」が六次産業を超える

著者：金丸　弘美　　発行：角川書店

地域のブランディングを成立させ、お金も地元に落とせるのはその地の”食文化“であるという考えをもとに、地元の食材、料理で人の味覚を鍛え、地元の食文化をテキスト化して継承と伝達を効率化する「食の戦略」により、地域を創ることを提唱する。

世界遺産と食を連携させ人を呼び込むイタリアの手法や、「味覚の講座」で子どもの表現力・郷土愛を育み輸出力を強化するフランスの例、一軒ではなく地域全体での六次産業化を図る日本の山間地を紹介する。

topics

地域づくり研修会を開催しました

平成２７年９月１日（火）に札幌市において、平成２７年度地域づくり研修会を開催しました。

基調講演では、全道の農業女性が活躍する場を広げる活動を行っている、前ＪＡ北海道女性協議会会長の岩永かずえさんから「農村地域に女性の視点と感性を」と題して、お話しいただきました。

また、道内で活発な活動を行う、農業女子ネットワークはらぺ娘代表の安丸千加さん、ＪＡ上川地区女性協議会会長の辰巳明美さんに活動紹介をしていただきました。

研修会には９６名が参加し、熱心に耳を傾けていました。

現地研修を行いました

平成２７年１０月８日（木）～９日（金）の日程で現地研修を七飯町・森町で行いました。

研修では、果樹オーナー制度を導入している「冨原観光農園」、無農薬・無化学肥料による栽培を行う「ついき農園」、在来種の栽培にこだわる「政田農園」、独自の方法で高糖度のかぼちゃを栽培する「みよい農園」、田園景観への取組を行う「久保田牧場」など、個性豊かな農場を見学しました。

また、ラムサール条約に登録される大沼国定公園の貴重な自然への理解を得るために行っている地域と連携させた取組について、お話しをうかがいました。

指導員会を開催しました

平成２８年１月２２日（金）に札幌市において、平成２７年度北海道ふるさと・水と土指導員会を開催しました。

活動紹介では、豊富町の尾﨑アドバイザーから、皮膚疾患への効果が期待される豊富温泉で、湯治に訪れる人と地域の人に憩いと交流の場を提供する取組について、また、知内町の笠松アドバイザーからは、ＪＡわくわく工房での加工品づくりを通じ、無理なく楽しく活動を続けるための取組について発表がありました。

活動紹介を受け、グループ毎で話し合い、討議結果を発表しました。

表紙紹介

七飯町と函館市の主婦達が活動する、被災地を応援する会「ほんわか」では、毎年、東日本大震災被災地の子ども達をホームステイで受入する「ほんわかのびのび夏休み」を実施しています。

写真は、受入プログラムの一環で訪れた七飯町冨原観光農園で実すぐり（摘果）の説明を聞く被災地の子ども達です。

子ども達の真剣な目差しに、若いリンゴを持って説明する冨原さんにも熱が入ります。

震災から今年で五年、子ども達への支援はこれからも続きます。